

# 史跡垣ノ島遺跡 函館市縄文文化



|     |       | B.C.9,000  |    | B.C.3,000 |    | B.C.1,000 |    | A.D.300 |      | A.D.800 |       |           |  |
|-----|-------|------------|----|-----------|----|-----------|----|---------|------|---------|-------|-----------|--|
|     |       | B.C.13,000 |    | B.C.5,000 |    | B.C.2,000 |    | B.C.300 |      | A.D.600 |       | A.D.1,200 |  |
| 日本  | 旧石器時代 | 縄文時代       |    |           |    |           |    | 弥生時代    | 古墳時代 | 飛鳥時代    | 平安時代  | 鎌倉時代      |  |
|     |       | 草創期        | 早期 | 前期        | 中期 | 後期        | 晩期 |         |      |         |       |           |  |
| 北海道 | 旧石器時代 | 縄文時代       |    |           |    |           |    | 続縄文文化   |      | 縄文文化    |       | アイヌ文化圏    |  |
|     |       | 草創期        | 早期 | 前期        | 中期 | 後期        | 晩期 |         |      |         |       |           |  |
|     |       |            |    |           |    |           |    |         |      | オホーツク文化 | ドナイ文化 |           |  |

## 史跡垣ノ島遺跡

津軽海峡を挟み本州の玄関口にあたる函館市には、ユネスコの世界文化遺産の登録をめざす「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産である史跡垣ノ島遺跡と史跡大船遺跡の二つの縄文遺跡があります。

このうち垣ノ島遺跡は、函館市中心部から約30km北東の南茅部地域にある臼尻地区に所在し、海岸に面した台地上に広がっています。史跡の面積はおよそ10万㎡におよび、これまでに発掘調査したのは全体の約2%程度にとどまっています、良好な状態で保存されていることも確認されました。

縄文時代早期（約9000年前）から後期（約3000年前）の約6000年間という長期にわたり縄文人の活動を示す多くの遺構や出土品が見つかり、縄文時代の重要な遺跡として平成23（2011）年2月7日に国の史跡に指定されました。

約6000年という大変長い時間の中では、温暖化や寒冷化などの気候変動や駒ヶ岳の大規模な噴火の影響を受けながらも、周辺地域の拠点として繰り返し台地を利用した痕跡が数多く見つかっています。これまでに最も古い痕跡としては、約9000年前の竪穴建物跡が検出していて、垣ノ島川の対岸にある同時期の垣ノ島B遺跡から世界最古の漆製品が出土し、早い時期から定住を開始していたことがわかります。

本遺跡の代表的な遺構としては、長さ190mの「コ」の字形をした国内最大級の盛土遺構があります。およそ5000年以上前から4000年前まで営まれた大規模な集落に、長期間にわたり構築された盛土の高さは2m以上におよぶ土堤状のものです。この中にはおびただし

い数の土器や石器のほかに、「青竜刀形石器」と呼ばれる儀式で使われたと考えられる道具が多数含まれていて、本遺構は単なるゴミ捨て場ではなく祭祀・儀礼の空間として利用されたと考えられます。盛土遺構は、現在でも見渡すことができる地形が残されていて、その規模には圧倒されます。

その後、約3800年前には別の地点で配石遺構や墓がまとまって見つかった配石遺構群や、本遺跡の最終段階にあたる約3000年前の竪穴建物跡群においては竪穴建物の床面から漆塗り注口土器や香炉形土器など祭祀・儀礼に使用したと考えられる遺物が数多く出土するなど、各時期にそれぞれの重要な成果が挙げられています。

とりわけ本遺跡の最も重要な位置づけとしては、約9000年前に定住が開始されるとともに、約7000年前をピークとする「縄文海進」と呼ばれる温暖期に、集落の中で生活するための空間と、死者を埋葬する空間が分かれて配置されるという機能の分化が開始されたことです。

生活空間にある竪穴建物の床面からは「石錘」と呼ばれる網の錘がまとまって出土していることから、活発な漁労活動を営んでいたことが窺えます。一方、生



垣ノ島 足形付土版出土大型土坑墓



垣ノ島 早期足形付土版2点

## と国宝のある 交流センター

### 福田 裕二 (ふくだ ゆうじ)

函館市教育委員会生涯学習部文化財課  
兼世界遺産登録推進室 主査(学芸員)

1967年函館市生まれ。90年駒澤大学文学部歴史学科(考古学専攻)卒業。  
91年南茅部町教育委員会学芸員。2008年函館市教育委員会生涯学習部文化財課勤務、14年10月～16年3月函館市縄文文化交流センター副館長兼務、16年度から現職。日本考古学協会会員、北海道考古学会会員。

活空間から離れた場所に設けられた集団墓地からは、この時期の北海道に特有の乳幼児の足形が付けられた「足形付土版」と呼ばれる粘土板が副葬品として17点も出土していることから、独特な墓制を示すことも重要な要素になっています。

なお、垣ノ島遺跡では平成29(2017)年度から保存整備事業に着手をして、令和3(2021)年6月の一般公開をめざして整備を進めています。

### 函館市縄文文化交流センターと国宝「中空土偶」

垣ノ島遺跡の隣接地の国道278号尾札部道路(バイパス)沿いに、平成23(2011)年10月に開館した「函館市縄文文化交流センター」があります。本施設は登録博物館であるとともに、全国で唯一国宝を展示する道の駅「縄文ロマン南かやべ」としても注目されています。

南茅部地域は、長年にわたり多くの縄文遺跡の発掘調査が行われていて、史跡垣ノ島遺跡や史跡大船遺跡をはじめ学術的な成果が数多く挙げられています。本施設は、こうした縄文時代の出土品や縄文遺跡を公開・活用し、ヒトや情報の交流拠点に位置づけられています。体験学習室においてはどなたでも手軽に縄文文化



縄文文化交流センター展示室

を体験できるよう、各種体験メニューも豊富に揃えています。また年間を通して各種講座や企画展などの事業を行っています。

メインとなる展示室は「生活」や「交易」、「精神性」といったテーマを設けて、南茅部地域を中心に函館市内から出土した土器や石器など縄文時代の秀逸な出土品を展示しています。

最も注目されるのは、昭和50(1975)年に尾札部地区の畑から地元の主婦によって偶然発見された「中空土偶」です。中が空洞に作られていることから「中空土偶」と呼ばれ、高さは41.5cmと現存する国内最大級の一つで、均整のとれた写実的な非常に精巧な立ち姿から、昭和54(1979)年の国の重要文化財指定を経て、平成19(2007)年に縄文土偶としては国内で2体目、北海道で唯一の国宝に指定されました。

本土偶は、男女両性の特徴が表現されていて、両腕と頭頂部の飾りが当初から失われています。土偶は一般的に単なる玩具や飾りとして作られたのではなく、願いや呪術的な目的を達成するために作られて破壊されることが考えられていることから、この中空土偶も何らかの目的で制作され儀式に用いられたうえで壊されたと考えられます。これまでに国内はもとより大英博物館やスミソニアン博物館など海外に何度も出展され、当時の高い技術を示し均整のとれた秀逸な造形は世界中から高い評価を得ています。

中空土偶は「茅空」という愛称で多くの方々に親しまれていて、縄文文化の普及活用や「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に向けた公告媒体に数多く利用されていて、縄文のアンバサダーとしても各地で活躍しています。



国宝「中空土偶」